

写真展 展示構成

昭和館写真展「子どもたちの戦中・戦後」

会期：令和5年3月18日（土）～5月7日（日）

会場：昭和館 2階ひろば

| S1R0243117290 | S1H3091114781 | S1H2111041829 | | |
|---|--|---|--|---|
| <p>令和5年春期写真展</p> <p>昭和館写真展 「子どもたちの戦中・戦後」</p> <p>・会期 令和5年3月18日(土)～5月7日(日)</p> <p>・パネル展示 40点(カラー:4点・モノクロ:36点)</p> <p>・後援 千代田区 千代田区教育委員会</p> <p>設営:令和5年3月15日(水)</p> | <p>ごあいさつ</p> <p>昭和館では、毎年さまざまなテーマで所蔵写真を紹介する写真展を開催しています。今回は『子どもたちの戦中・戦後』と題し、時代によって変化する子どもたちの暮らしを紹介します。</p> <p>戦争が始まり、国内が戦時体制へ向かっていくと、人々の暮らしにも少しずつその影響が広がっていききました。子どもたちの暮らしも例外ではなく、学校生活や遊びの内容も変化していきます。</p> <p>終戦を迎えると空襲におびえることはなくなりましたが、都市部の駅などには多くの戦災孤児の姿が見られました。引き続き食糧や物資の不足が深刻な中でも、子どもたちはたくましく生き、未来を担う子どもたちのために保護や救済を行う人々もいました。</p> <p>春は卒業式や入学式、新学期、「こどもの日」と、子どもたちの季節とも言えます。子どもたちが健やかに育つことは、いつの時代も人々の願いであることは変わりませんが、戦中から戦後にかけて、子どもたちを取り巻く社会がどのように移り変わったのかをご覧ください。</p> | <p>1. 花見日和</p>  <p>手をつなぎ合い、墨堤で桜の花見を楽しむ女の子たち。このあたりは江戸時代から桜の名所として知られていた。</p> <p>東京都墨田区向島 昭和10年(1935) 師岡宏次撮影</p> | <p>2. 修学旅行</p>  <p>伊豆方面への修学旅行の途中、二宮尊徳誕生地を訪れた御成尋常小学校(現・鎌倉市立御成小学校)の6年生。</p> <p>二宮尊徳は農業に生涯を捧げた偉人として教科書に取り上げられたり、薪を背負って本を読み歩く幼少期の姿の像が日本各地で建立されたりするなど、勤勉の象徴として子どもたちに認識されていた。</p> <p>神奈川県小田原市栢山 昭和11年(1936)</p> | <p>3. 書店の店先</p>  <p>店先で立ち読みをする男の子たち。下校時の道草だろうか。陳列棚には『男子の友』や『少女の友』、『男子幼稚園』など子ども向けの雑誌が並んでいる。</p> <p>ニューヨーク州立公文書館提供 神奈川県横浜市 昭和14年(1939)</p> |
| S1R0191115193 | S1H2858105616 | S1H1417021111 | S1R0191116530 | S1H2891103328 |
| <p>4. 薙刀の授業</p>  <p>薙刀の授業を受ける第四峡田(はけた)尋常小学校(現・荒川区立第四峡田小学校)の女子児童たち。心身を鍛え、より強い日本の国をつくるための学校教育が施された。</p> <p>東京都荒川区 昭和15年(1940)2月5日 渡辺豊貞撮影</p> | <p>5. 麦刈りの手伝い</p>  <p>戦争が始まると男性は軍隊に入ったり、軍需産業にかり出されたりした。そのため農村では人手不足となり、子どもたちも働き手として家庭で農作業を手伝ったり、学校単位で援農に行ったりすることもあった。</p> <p>長野県上田市 昭和16年(1941)6月21日</p> | <p>6. 朝のラジオ体操</p>  <p>呉服橋三丁目(現・八重洲一丁目)の空き地でラジオ体操が行われる様子。</p> <p>ラジオ体操は、昭和3年(1928)に天皇陛下即位の大礼を記念して逓信省簡易保険局が制定し、日本放送協会の協力を得て「国民保健体操」の名称で国民の健康保持増進を目的として開始された。</p> <p>東京都中央区八重洲 昭和17年(1942)7月頃 持田晃提供</p> | <p>7. 神代村(こうじろむら)国民学校での葬儀</p>  <p>神代村国民学校(現・雲仙市立神代小学校)で行われた戦没者の合同葬。遺族のほか、村長や村役場の職員、僧侶、地域住民、学校の児童・生徒などが参列した。</p> <p>長崎県雲仙市 昭和17年(1942)11月10日</p> | <p>8. 七五三の記念写真</p>  <p>日中戦争が始まると、軍国調の祝い着が作られるようになり、男の子は軍服、女の子は赤十字社の看護婦姿を模した衣装を着せることが流行した。</p> <p>埼玉県越谷市 戦中</p> |

| | | | | |
|---|---|---|---|--|
| S1H1791030518 | S1H1390021005 | S1H3091111861 | S1H2591101002 | S1H2891103387 |
| 9. 校庭で育てたサツマイモの収穫 | 10. 絵を描いて遊ぶ児童 | 11. 別れを惜しむ親子 | 12. 疎開先へ出発する直前に自宅にて | 13. 炭を運ぶ疎開児童たち |
|  |  |  |  |  |
| 食糧増産のため、栲山(くぬぎやま)国民学校(現・入善町立桃李(とうり)小学校)では校庭を開墾し畑としていた。女子児童はモンペ姿で男子児童は上半身裸、白い鉢巻を巻いて鍬を持ち、肥桶をかっいでいる。 | 戦車や潜水艦の絵を描く東京第二師範学校附属国民学校(現・東京学芸大学附属小金井小学校)の児童たち。 | 千葉県市原郡市原村(現・市原市)の養福寺へ学童疎開するため、錦糸町駅前に集合した柳島国民学校(現・墨田区立柳島小学校)の児童と見送りに来た家族の様子。 昭和19年(1944)6月30日、政府は「学童疎開促進要領」を閣議決定し、東京や大阪など大都市の国民学校3年生以上の児童の疎開が進められた。 | 大向国民学校(現・渋谷区立神南小学校)5年生の女子児童。同学校の5・6年生は富山県東砺波郡福野町(現・南砺市)へ学童集団疎開した。着用している服は母が手縫いで仕立ててくれたもの。 | こたつに使うため作った炭を運ぶ、立教高等女学校附属初等学校(現・立教女学院小学校)6年生。同校では3～6年生の児童55人が、教師や寮母とともに昭和19年(1944)8月から別所温泉へ集団疎開していた。 |
| 富山県下新川郡入善町 | 東京都豊島区池袋 | 東京都墨田区 | 東京都渋谷区 | 長野県上田市 |
| 昭和18年(1943)7月 | 昭和19年(1944)3月頃 | 昭和19年(1944)8月 | 昭和19年(1944)9月3日 | 昭和19年(1944)8月～20年4月 |
| 入善町郷土資料室提供 | 菊池俊吉撮影 | | | |
| S1H2391100182 | S1H0909007772 | S1H0909008034 | S1H0601009785 | S1H2601102435 |
| 14. 井戸に集まった疎開児童 | 15. 避難する母子 | 16. 罹災したきょうだい | 17. 焼けた校舎の片付け | 18. ジープに乗せてもらった男の子たち |
|  |  |  |  |  |
| 芳林(ほうりん)国民学校(現・千代田区立昌平小学校)5年生。疎開学寮としていた浄信寺の井戸では、洗面や食器洗いなどをした。 | 昭和20年(1945)1月27日の14時頃、複数のB29が銀座界隈を爆撃した。 この写真は空襲直後の16時頃に撮影されたもので、数寄屋橋の上を母と娘が逃げまどっている。 | 空襲で家を焼かれ、両親も行方不明になり、親戚を頼って避難するきょうだい。 中学生くらいの男の子が、家財道具が積まれたリヤカーを引き、幼い弟や妹は後ろから押している。 | 昭和20年(1945)7月10日の仙台空襲で焼けた校舎の、瓦礫を片付ける木町通国民学校(現・仙台市立木町通小学校)の児童たち。 | 燃料が不足する中、木炭バスや自転車タクシーが道路を往来する一方で、進駐軍の持ち込んだジープが街角を颯爽と走り抜ける姿は、男の子にとって憧れの対象であった。 |
| 埼玉県久喜市栗橋町 | 東京都中央区数寄屋橋 | 東京都荒川区尾久 | 宮城県仙台市青葉区木町通 | 長崎県佐世保市 |
| 昭和19年(1944)9月 | 昭和20年(1945)1月27日 | 昭和20年(1945)4月14日 | 昭和20年(1945)9月29日 | 昭和20年(1945)10月1日 |
| | 石川光陽撮影 | 石川光陽撮影 | 米国国立公文書館提供 | 米国国立公文書館提供 |

| | | | | |
|--|---|--|--|--|
| S1H2601102296 | S1H2891106957 | S1R0243117879 | S1H0901015617 | S1H2739103115 |
| 19. 引揚者の収容施設 | 20. 入学式の記念写真 | 21. 保護施設に到着した孤児たち | 22. 子どもと話をする昭和天皇 | 23. ララへの感謝 |
|  |  |  |  |  |
| 収容施設で寝床に就く引揚者の子どもたち。加治木は昭和20年9月18日に引揚港に指定され、11月24日に引揚援護局が設置された。上陸した引揚者たちは、錦江国民学校(現・始良市立錦江小学校)など周辺の学校や、加治木療養所(現・南九州病院)に収容された。 | 延山(えんざん)国民学校(現・品川区立延山小学校)へ入学した新1年生の記念写真。靴や草鞋を履いている児童、裸足の児童など様々で、服装からも戦後の物資不足を感じさせる。 | 戦災で身寄りを失い、都市部のターミナル駅や地下道などに集まって生活する子どもたちは、「浮浪児」「駅の子」と呼ばれた。昭和20年(1945)9月20日、政府は「戦災孤児等保護対策要綱」を決定し、戦災孤児の保護収容を行った。保護収容は「狩り込み」と呼ばれ、トラックに乗せられて保護施設へ送られた。 | 巡幸先の県立銚子商業学校(現・銚子商業高等学校)で男の子に話しかける昭和天皇。空襲被害をうけ、同学校の校舎を共同利用していた興野国民学校(現・銚子市立双葉小学校)の児童と思われる。昭和天皇は戦災で傷ついた国民を慰問し激励するため、昭和21年2月の神奈川県を皮切りに全国を巡幸した。 | ひな祭りの催しで、ララ物資への感謝の劇を披露する様子。昭和21年(1946)11月から27年(1952)6月までアメリカのアジア救援公認団体ララ(Licensed Agencies for Relief in Asia)から日本へ、食糧、衣類、医薬品、雑貨など大量の救援物資が届けられた。 |
| 鹿児島県始良市加治木 | 東京都品川区西中延 | 東京都 | 千葉県銚子市 | 場所不詳 |
| 昭和20年(1945)11月20日 | 昭和21年(1946)4月 | 昭和21年(1946) | 昭和21年(1946)6月6日 | 昭和22年(1947)3月頃 |
| 米国国立公文書館提供 | | 師岡宏次撮影 | 米国国立公文書館提供 | American Friends Service Committee提供 |
| S1R0191116147 | S1H0701010718 | S1H2739103129 | S1H0702013790 | S1H2941107872 |
| 24. 春の訪れ | 25. 散髪してもらった戦災孤児 | 26. 野球をする少年たち | 27. 靴磨きの少年 | 28. 街頭紙芝居 |
|  |  |  |  |  |
| 満開の桜の下、木橋を渡る子どもたち。うらかな春の訪れを感じさせる。男の子たちは学童服姿である。 | 児童養護施設「愛児の家」の庭で散髪してもらった戦災孤児の男の子。「愛児の家」は、主婦の石綿貞代(いしわたさたよ)が私財を投じ自宅に開いた養護施設で、上野駅などに集まる身寄りのない子どもたちに声をかけ、保護し育てた。 | 普連土(ふれんど)女学校(現・普連土学園中学校・高等学校)の校庭で野球をする様子。同学校は昭和20(1946)年5月25日の東京大空襲で校舎が焼失した。昭和21年にプロ野球や学生野球が再開されると、国民の娯楽として野球ブームが起き、焼け跡などに子どもたちが集まり、野球を楽しむ光景が見られた。 | 「浮浪児」や「駅の子」と呼ばれた子どもたちは、靴磨きのほか、闇市の手伝いや煙草拾いなどをして生計を立てた。 | 甲州街道沿いで街頭紙芝居に集まった子どもたち。カメラが珍しいのか、皆こちらを向いている。街頭紙芝居は昭和5年(1930)頃に始まり、当時の子どもたちにとって最大の娯楽だった。戦後は昭和21年頃より復活し、23年から24年にかけて最盛期を迎えるが、30年代後半に入るとテレビの普及などによって、しだいに街から姿を消していった。 |
| 場所不詳 | 東京都中野区 | 東京都港区 | 東京都 | 東京都渋谷区 |
| 昭和21年(1946)3月～22年5月 | 昭和22年(1947)5月19日 | 昭和22年(1947)5月 | 昭和22年(1947)～27年 | 昭和21年(1946)～24年 |
| アネット・チェイト・ファインストーン撮影 | 米国国立公文書館提供 | American Friends Service Committee提供 | マッカーサー記念館提供 | オリバー・L・オースティンJr.撮影 Copyright of Photography : Dr. Annika A. Culver, Curator of the Oliver L. Austin Photographic Collection. |

| | | | | |
|---|--|---|--|--|
| S1R0191116270 | S1H0702013238 | S1H0702012728 | S1H0901015711 | S1R0101115537 |
| 29. お花見に来た家族 | 30. 幼い兄妹の子守り | 31. 米軍のジープを囲む子どもたち | 32. マッカーサーを見送る人々 | 33. 米兵との交流 |
|  |  |  |  |  |
| 玉川上水沿いの小金井堤で、弁当を食べる家族。お花見に出かけた時の記念写真。当時、家族で近郊の名所や景勝地などへ出かけるのが、休日の過ごし方であった。 | 停留所の前に集まる笑顔の子どもたち。当時、きょうだいの多い家庭がほとんどだったため、幼い弟妹の世話や家事の手伝いをすることは当たり前であった。 | 噴水で水遊びをしていた子どもたちが集まっている。戦後、進駐軍のジープを子どもたちが囲み、お菓子をもらう光景は、全国各地で見られた。 | 日本を去るダグラス・マッカーサーをひと目見ようと、羽田空港への沿道に集まった人々。子どもたちは日の丸の手旗を振っている。昭和26年(1951)4月11日、マッカーサーはGHQ(連合国軍最高司令官総司令部)の最高司令官を解任され、4月16日にアメリカへの帰途についた。空港では吉田茂首相も見送った。 | 米軍の駐屯地に招待された児童養護施設の子どもたち。男の子が米兵とファイティングポーズで交流している。戦後、駐屯地で行われるクリスマスのイベントに招かれたり、進駐軍の兵士が施設へ慰問に訪れたり、児童養護施設と進駐軍の間で様々な交流が行われた。 |
| 東京都小金井市 | 佐賀県武雄市武雄町(推定) | 東京都 | 東京都 | 埼玉県 |
| 昭和23年(1948)4月11日 | 昭和22年(1947)～36年頃 | 昭和23年(1948)～36年頃 | 昭和26年(1951)4月16日 | 昭和29年(1954)12月30日 |
| 小川駿提供 | マッカーサー記念館提供 | マッカーサー記念館提供 | 米国国立公文書館提供 | 米国国立公文書館提供 |
| S1H22JB043985 | S1R0491132217 | S1R0381127136 | S1H2454100533 | S1H3091114879 |
| 34. 平和祈念像の前で写生をする子どもたち | 35. パン食い競走 | 36. 古河第一小学校のプール | 37. 絵を描いて遊ぶ子どもたち | 38. ヒーローごっこ |
|  |  |  |  |  |
| 平和祈念像は、被爆10周年の記念行事の一貫として、昭和30年(1955)に長崎市が平和公園内に建設した。高さ9.7メートル、重さ30トンの青銅製の像で、制作者は長崎県出身の彫刻家 北村西望(きたむらせいぼう)。 | 運動会でパン食い競走に参加する観音幼稚園の園児と保護者たち。パン食い競走は、コースの途中にあんパンなどが吊るされていて、手を使わずに口でくわえてゴールまで走る競技。 | 昭和31年(1956)、古河市に初めて学校プールがつけられた。地域の川や池は子どもたちの遊び場であったが、水難事故も多く、安心して泳げるプールの完成に保護者たちは喜んだ。 | 地面に乗り物の絵を描いて遊ぶ男の子。戦中、男の子には戦車や潜水艦が人気であったが、戦後は自動車や鉄道など身近な乗り物へと変化した。 | カウボーイの格好でコルク銃を持ち、ごっこ遊びをする男の子。コルク銃は空気の圧力でコルクが飛び出す仕組みで、コルクは糸で銃身と結ばれているので遠くまで飛ぶことは無く、安全に配慮された鉄砲玩具であった。 |
| 長崎県長崎市 | 神奈川県川崎市川崎区観音 | 茨城県古河市中心町 | 東京都中央区銀座 | 東京都渋谷区 |
| 昭和30年(1955) | 昭和30年(1955)10月9日 | 昭和31年(1956) | 昭和32年(1957) | 昭和35年(1960)6月 |
| ジュリアン・ブライアン撮影 | | 鈴木路雄撮影 | 井上裕章撮影 | |

| | |
|---|--|
| S1H3091114857 | S1H3091112745 |
| 39. 船橋ヘルスセンター | 40. 路地裏の子どもたち |
|  |  |
| <p>船橋ヘルスセンターは昭和30年(1955)に開場した温泉娯楽施設。温泉を中心にプールや遊園地などが併設され、当時「東洋一」といわれるほどの規模であった。</p> <p>所得水準の向上とともに、日本各地で遊園地や大規模娯楽施設がオープンし、家族連れでにぎわった。</p> | <p>年長の男の子は、おどけて「シェー」のポーズをとっている。</p> <p>「シェー」は、赤塚不二夫の人気漫画作品、『おそ松くん』の登場人物であるイヤミが行うギャグで、そのポーズも含め当時の子どもたちに大流行した。</p> |
| 千葉県船橋市浜町 | 神奈川県横浜市神奈川区 |
| 昭和38年(1963)4月3日 | 昭和41年(1966) |
| | 末吉哲撮影 |